

# 柳 沢

一九八一年六月二日

柳沢と中ノ沢の合流点に車を置き、林道を歩く。前方にカモシカがいる。すかさず、西さんがカメラにとる。この辺はよくカモシカに出会う。天候はあいにく小雨。一時間歩いてはまだ林道が続く。年々奥へのびてゆくようだ。

九時四五分、遊行開始。左右にくつもの小沢を分けつつ、本流には次々に小滝がかかるが、何なく越えてゆく。

やがて前方にスノーブリッジがかかる。下を通らないで左岸よりを乗り越える。今年は雪が多かったためか、それとも異常低温のためか、残

雪が例年になく多い。

次の小滝を越えた所で小休止して、ヤマウドを採る。この地域の沢登りでは、山菜採りも楽しみの一つである。

再度出発。再び小滝連続。ナメ、

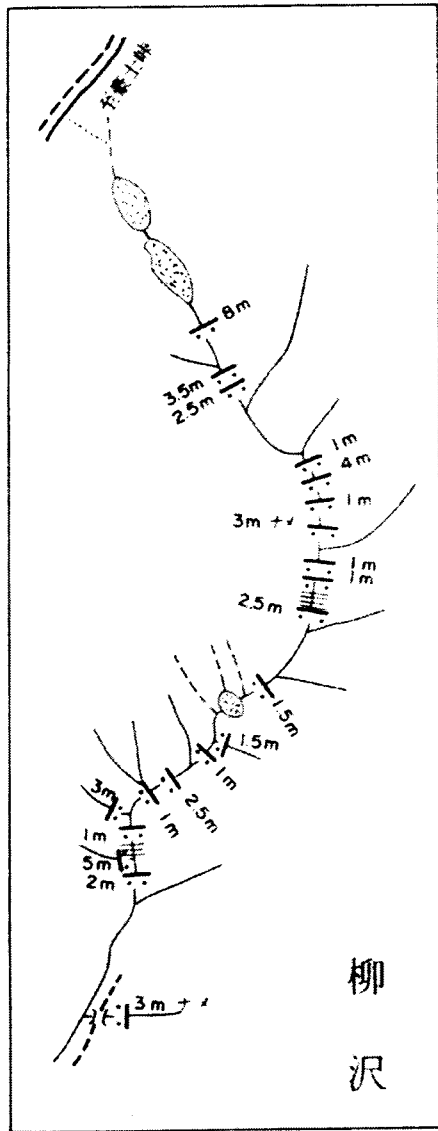
小滝と軽快に越えてゆく。もう源流部の装いである。

やがて二俣。本流と見られるのは右俣だが、左俣には滝が見られる。どちらをつめても良からうというこ

とで、左俣に入る。

二俣から見えていた滝は、中央やや右を直登する。小沢が入り、沢が左にカーブした所に、最後の滝、八段階段状がかかっていた。

何だか沢の空気が冷たく感じられ

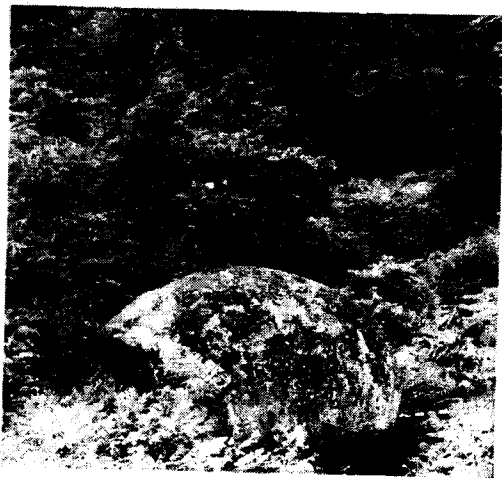




柳沢源頭は思いもかけぬ  
雪溪登りとなった

る。滝の上に出ると、「何と！」前方に雪溪が広がっているではないか。昼食をとってから出発する。雪溪はすぐ終わるだろうと思っていたら、その上にさらにもう一つ、合わせて五〇〇坪にもなるうかという長さがあつた。足は冷たくなり、頭の方まで冷えてくる感じだ。

雪溪が終わったところからは、ヤブこぎ一〇分で尾根上の踏跡に出る。



亀岩:何の変哲もない岩だが……

豪士峠から続いているこの踏跡は、途中までははっきりしているが、伐採跡地(今ではブッシュがかなりのびている)あたりから先が廃道化している。降りているうちに踏跡がわからなくなり、こうなりや面倒と、小沢づたいに柳沢めざして降りる。

「タイム」

遊行開始(九:四五)↓二

俣(一一:〇〇)↓終了(一一:五

五)

### 藪漕ぎ

かきわける手、  
押しつける肩  
引き寄せる腕、  
突き進むヘルメット  
うすい所、うすい所と登る  
箱庭のように見える青空  
時々見える仲間のヘルメット  
踏み跡に出た時の安堵感  
身体から吹き出す汗が  
長い作業の おわりを告げる。  
ふと考えるのは、この時  
仲間は何を考えて  
藪をこぐのだろう  
細い沢に入るのは、  
藪漕ぎがあるからかもしれない  
孤独と、仲間の連帯感を  
楽しむ為に。